

発話行為・会話分析的要素による日独マンガ翻訳テキストのパラメーター比較分析 ——日本マンガ『よつばと！』における「何（だ）それ」を例に

Vergleichende Parameteranalyse der japanisch-deutschen übertragenen Texte Mangas
in Sicht von Sprechakt und Konversationsanalyse.

Anhand von den Übertragungsvariationen von „Was soll das?“ bei dem japanischen
Manga *YOTSUBATO!*

大塚 萌
OTSUKA Moe

1. はじめに

ドイツで日本のマンガは活発に翻訳され、毎月のように新刊が本屋に並ぶ光景が見られる。

マンガを翻訳する際には様々な問題が生じる。例えば日本の日常的なモノ、食べ物や施設などに対応する語や概念がドイツ語にない場合がある。しかし翻訳上の問題は、そうしたドイツにない物品、概念に関するものだけにとどまらない。マンガの文字テキストの多くを占める会話を、いわゆる直訳をしてしまうと翻訳版読者が自然に話の流れを読み取ることができない場合もある。そして実際に、単に直訳すれば事足りそうな会話の文字テキストが、内容を変更されて翻訳されている場合がある。

マンガの文字テキストにおいて内容が変更されている場合、その変更の理由は一体何であるのか、変更されているのはどのような要素についてなのか、本論では分析を試みてみたい。最終的には、翻訳後も優先的に残るのはどのような要素なのか、そしてなぜその要素が残るのかを明らかにしたい。そのときに、日本とドイツの文化的背景の違いが明らかな物品、概念についての翻訳についてではなく、その文字テキストが会話の中でどのような行為を担っているのかに注目する。そのとき、会話をその分析対象にする研究分野である発話行為論や会話分析的な要素を取り入れることを提案する。

本論 2 章では、先行研究として発話行為論、会話分析とその分析の諸要素について見た後、3 章で分析パラメーターを設定する。4 章では実際の翻訳例から設定したパラメーターを使って、日本語版とドイツ語版文字テキストの比較分析を試みる。

2. 先行研究

本論では、『よつばと！』の中の「何（だ）それ」を分析するために、発話行為論と会話分析的な要素からパラメーターを設定する。本章ではまず、発話行為論と会話分析とはどんな学問領域を指すかについて概観した後、実際の「何（だ）それ」の文字テキスト例を見て本分析に必要な発話行為論や会話分析的要素について先行研究から見る。

2. 1. 発話行為論

ある発話が会話の中でどのような行為を行っているかについて、発話行為論の領域があり、この領域において言語行為 (speech act) の概念がある。

オースティンはまず、「何ごとかを言う」という行為を名付けて、発語行為(locutionary act)¹⁾と定義づけている。これは、純粹に「発話する」行為を指している。しかし実際の発話は、「純粹に発話する」行為を達成するだけのものではない。

「発語行為」を遂行することによって、その発話が例えば「質問」や「陳述」、「要求」などの行為を行っていることを、オースティンは「発語内 (的) 行為 (illocutionary act)」²⁾と呼んでいる。さらに、この「発語行為」とそれに伴う「発語内行為」の遂行によって、会話の参加者やそれ以外に言及される人物の感情や思考、行為に対して結果として効果を生ずる場合があり、またこの効果を生じさせようとする計画や目的を伴って発言を行うことが可能であるとし、このような行為を「発語媒介的行為または発語媒介行為 (perlocutionary act, perlocution)」³⁾と定義した。

つまりこれらの概念は、「発話する」行為を考えた時、例えば「質問」することによって「説明を要求する」ことができ、この場合の「質問」が「発語内行為」であり、「説明を要求する」のは「発語媒介行為」である。

さらにこの概念を受け、サールは「発語内行為」の種類を分類し、それぞれの規則において細かい分析を行っている。例えば、話し手と聞き手が出会った時に相手を認知したことを表す「挨拶」、聞き手に将来の行為をさせようとする「依頼」、話し手が求めている情報について、聞き手からそれを引き出そうとする「質問」などがある。

これらの概念を受け、本論では対象文字テキストの「発語内行為」について分析を行う。

2. 2. 会話分析

会話分析とは、社会学や言語学で知られている学問領域である。広く社会生活の中で行われている「話すこと」による相互行為を研究対象としており、実際の会話の中からやりとりの秩序や社会的秩序を研究するものである。社会秩序を相互行為の中から現象学的に研究しようとしたハロルド・ガーフィンケルによって創始されたエスノメソドロジーにおいて、彼とハーヴィー・サックスとの出会いの中で成員カテゴリー分析と会話分析という基本的

1) オースティン, ジョン (1978)『言語と行為』坂本百大訳、大修館書店、p.164

2) 前掲書、p.171

3) 前掲書、p.175

な二つの方法が生み出された⁴⁾。

現在では、会話分析は会話における相互行為や会話自体を研究する方法として、様々な分野で研究されている。会話の組織が細分化して研究されており、そのテーマには「会話の開始」や「修復」、「優先構造」などがある。

また、会話分析は実際の会話の録音データやビデオデータを用い、それを詳細に書き起こしたトランスクリプトを分析する。音声のみの場合は、笑いや沈黙、言い淀みなど音声に現れる会話の特徴がすべて分析の対象となる。ビデオデータの分析においては、チャールズ・グッドウィンによる聞き手の行為、特に視線を分析し、話し手と聞き手の相互行為によって会話が作り上げられていることを明らかにしたものがある。この研究以来、ビデオデータを用いた会話分析はますます盛んになり、この方法も様々な分野で行われている⁵⁾。

最後に、会話分析における分析の確かさは、会話が相互行為的な行為であることから説明できるものとする。つまり、会話分析は録音・ビデオ映像・トランスクリプトなどのデータを直接的に観察することによってなされ、そこからは会話の参加者が何をやっているかを観察することができる。相互行為的であるということは、会話の発話者がどのような行為をしているか、それを聞き手がどのように受け取っているかを、発話に続く反応を見ることで解釈しようということである⁶⁾。

マンガの翻訳比較研究において、このような会話分析の方法が有効ではないかと考えた大きな理由は、マンガにおける文字テキストの多くが会話テキストであることによる。ウンサーシュッツ (2010) のマンガのコーパス研究によれば、マンガ作品全 8 作品 24 巻分のコーパス 578880 字のうち、71.49%が台詞であり、最多であったと報告されている⁷⁾。マンガの文字テキストは、そのほとんどが会話から構成されているのである。

ただし、会話分析において扱うのは録音データおよびビデオデータを書き起こしたトランスクリプトであり、リアルタイムの会話が研究の対象となる。そのため、非リアルタイムの、いわば作られた会話であるマンガの文字テキストのようなものは、本来研究対象には含まれていない。

しかし、いくら擬似的なものとはいえマンガの文字テキストは読者が違和感を抱かないように「会話らしく」作られていると考え、非リアルタイムに生じる現象に絞って、会話分析的要素を分析に取り入れることを提案するものである。筆者が知る限りでは、会話を分析する観点からマンガの文字テキストにおける分析を行う試みを行った研究は他にはない。

リアルタイムに生じる現象として、例えば会話の組織には順番交替の組織があり、これは

4) ジョージ、サーサス・ハロルド、ガーフィンケル・ハーヴィー、サックス・シュグロフ、エマニュエル (1989)『日常性の解剖学——知と会話』北澤裕・西阪仰訳、マルジュ社、pp.7-9

5) 山崎敬一編 (2004)『実践エスノメソドロジー入門』有斐閣、pp.33-34

6) 前掲書、pp.39-40

7) ウンサーシュッツ・ジャンカーラ (2010)「人気マンガのコーパスで見る文字表現の分類について」『日本マンガ学会第 10 回大会プログラム・発表要旨集』、京都

本分析の対象からは外れる。さらに、マンガの文字テキストは実際の音声を伴わないために、ピッチの変化や笑い含みの発音、沈黙の長さなどを判別することは出来ないために、分析の対象とならない。

その代わりに、会話の組織では非リアルタイムのトランスクリプトからも観察できる修復などの行為、または文字テキストに表記される沈黙「…」や「!」・「?」などの疑似イントネーションを読み取ることができる。さらに、マンガは文字テキスト以外にイラストを伴う媒体であるため、人物の視線や表情やコマの中に描き込まれた動きを分析の対象に加える。さらに、吹き出しの形やフォントの違い、驚きや焦り、喜びなどのマンガ的な記号による補助的な表現がある。本論では文字テキストに加えてこれらの要素を取り入れた疑似トランスクリプトを作り、分析を加える。

2. 3. 分析に用いる会話分析的要素

本論の対象テキストは「何（だ）それ」である。この文字テキストを対象としたのは、「何（だ）それ」が多様な意図と役割をもって会話の中で発される発話であると考えたためである。この「何（だ）それ」という文字テキストを分析する際の会話分析的要素を見るために、実際にマンガからトランスクリプトを作り、どのような相互行為が行われているかについて考える。

本研究では、作ったトランスクリプトを資料編として本文の後に付した。まず、その中の(I, IV)のトランスクリプトを例に見る。この場面では、対象となる「何（だ）それ」が二度現れている。この2度の「何（だ）それ」はそれぞれ会話と言う相互行為の中では一体どのような役割を果たしているだろうか。

本分析では、大きく分けて2つの要素が必要とされ则认为。一つは、対象となる文字テキストが会話の中でどのような行為を行っているかである。もう一つは、会話の流れの中で対象の文字テキストが前後の文字テキストとどのような関係性にあるかである。発話の行う行為については、発話行為論の項ですで見ため、前後の文字テキストとの関係性について会話分析的要素から見る。

2. 3. 1. シークエンス

ある発話が会話の流れの中で前後の発話とどのような関係性にあるかについては、シーケンス(sequence)の概念がある。ある瞬間において会話は、時に重なりが生じることもあるが、おおむね参加者の中の誰か1人だけが話す。ある時点まで発言すると、話者が交代し、発言する。会話は発話の連なりであり、その発話の連鎖をシーケンスと呼ぶ。まず本論で特に注目するのは、隣接ペアと呼ばれる発話対である。

隣接ペアとは、エマニュエル・シェグロフとハーヴィー・サックスによる会話がどのよう

に終了するかという研究の中で提示された概念である。その定義は、「(1) 二つの発話からなり、(2) この構成成分としての二つの発話は隣接した位置に置かれ、(3) 各々の発話をそれぞれ別の話し手が生成する」⁸⁾というものである。例えば、「質問」という発話に対しては「返答」というペアが形成される。また、このペアの先に来る成分を有する発話を「第一対偶成分」⁹⁾、後に来る発話を「第二待遇成分」と呼び、さらに「(4) 各対偶成分に相対的な順序が存在し(すなわち、第一対偶成分が第二待遇成分に先行する)、(5) ある対偶成分はもう一つの成分を特定化する関係にある(すなわち、ある第一対偶成分を構成要素としている対偶様式は、どのような第二待遇成分を選択したらよいのかに影響を与える)」¹⁰⁾と定義される。そして、この第一ペア成分には、サールが「発話内行為」と呼んだものがしばしばくる。

さらに隣接ペアの特徴は、隣接ペア第一ペア成分が会話中で発話された場合、第二ペア成分を含んだ発言が強く次の会話順番において期待されるという点である。しかも、次の順番に第二ペア成分が来ない場合、第二ペア成分の発話内容が何らかの理由で故意に保留されているように聞こえ、その不在が強く認識されることになる。

こうした隣接ペアという概念をもって、本論の対象文字テキスト「何(だ)それ」というテキストを見た時、発話行為的には「質問」を行っているものであり、隣接ペア第一ペア成分の可能性がある。ここで、確実にこの文字テキストが隣接ペア第一ペアの成分であると言い切らない理由については後述する。さらに、この「何(だ)それ」という「質問」を行為する文字テキストがどのようなシークエンス上の役割を担うかについて、次の項で見る。

2. 3. 1. 1. 修復の組織

「何(だ)それ」と「質問」するということは、その対象についてのなんらかの理解に関するトラブルがあったと考えられることもある。会話において、聞き取りや理解についてのトラブルがあった場合に行われる対処のメカニズムを考えるのが、「修復の組織」と呼ばれている領域である。

エマニュエル・シェグロフ、ゲール・ジェファソン、ハーヴィー・サックスによって、この「修復の組織」について分析した研究がある¹¹⁾。そこでは修復という行為についての定義、また修復行為の開始について、修復の技法について詳しい議論がなされているが、本項では必要な部分について概観するにとどめる。

⁸⁾ ジョージ・サーサス・ハロルド、ガーフィンケル・ハーヴィー、サックス・シェグロフ、エマニュエル(1989)『日常性の解剖学——知と会話』北澤裕・西阪仰訳、マルジュ社、p.185

⁹⁾ ここでは„pair“が「対偶」と訳されている。本論では「ペア」の訳語を用い、「第一ペア成分」、「第二ペア成分」の語を用いる。

¹⁰⁾ 前掲書、p.186

¹¹⁾ サックス、ジェファソン・シェグロフ、エマニュエル・ジェファソン・ゲール(2010)『会話分析基本論集——順番交替と修復の組織』西阪仰訳、世界思想社、pp.155-246

修復の組織は、まず修復という行為を開始する主体によって、大きく 2 つに分類できる。つまり、会話においてトラブル源¹²⁾を産出した発話者自身によるものと聞き手によるものの 2 種類で、それぞれを修復の「自己開始」、「他者開始」と呼ぶ。本論で対象とする「何（だ）それ」が修復を開始しているとすれば、「他者開始」となる。

また修復の組織には、開始についての議論だけではなく、その技法についての議論もある。「自己開始」・「他者開始」それぞれの開始位置について技法があるが、シェグロフらによれば「他者開始」についての技法には次のようなものが指摘されている¹³⁾。

- イ) 非限定の質問：「え？」、「何？」など
- ロ) カテゴリー限定的質問：「何」以外の質問語できているもの
- ハ) 位置限定質問：質問語に加えてトラブル限の前後を繰り返すもの（「何大学？」など）
- ニ) 部分的繰り返し：トラブル源を限定し、その部分を繰り返すもの
- ホ) 理解候補の提示：先行する発話に対する理解候補を提示する（「〇〇ということ？など」）

これら 5 種類の「修復の他者開始」の技法の中には、「何（だ）それ」に当たる分類がない。最近シェグロフにより、「狙いのある質問」とでも言うべき「〇〇って何？」というパターンも発見されており¹⁴⁾、「何（だ）それ」はこれに近い。

また、修復の技法を使うことによって、驚きを表現できる。

また、修復の活動は、発話行為的には「質問」であり、これは隣接ペア第一成分でもある。そのために、修復の行為である「返答」という隣接ペア第二成分を強く期待する。しかし、修復が開始されたからと言って修復活動が必ず成功するとは限らず、失敗されたり放棄されたりすることもある。

とにかく、もし「何（だ）それ」が修復の他者開始として発話された場合は、隣接ペアの概念も含め、修復の活動を行う「返答」が強く期待される。もし「返答」がない場合は、その不在が強く認識されることになる。例えば、2.2.項の初めで見たトランスクリプト(I, IV)の二つの「なんだそれ」のうち、一つ目の文字テキストの直後を見ると、「いまかんがえた」とあり、「返答」が実際にある例となっている。この「なんだそれ」が本当に修復の活動かどうかについては、本論において分析を行う。

以上の修復の組織を受けて、さらに次項では、「何（だ）それ」という文字テキストが返

¹²⁾ 「トラブル」と「トラブル源」は異なるものを指す。「トラブル源」は修復活動の対象となったものを指し、「トラブル」とは「トラブル源」を原因として引き起こされた現象を指す。

¹³⁾ サックス、ジェファソン・シェグロフ、エマニュエル・ジェファソン・ゲール（2010）『会話分析基本論集——順番交替と修復の組織』西阪仰訳、世界思想社、pp.179-186

¹⁴⁾ 西阪私信

答を期待しない場合について見る。

2. 3. 1. 2. セルフトーク

対象テキスト「何（だ）それ」が「返答」を強く期待しない場合もある。発話行為自体は「質問」の形を取りながら、「独り言」を言っている場合である。

アーヴィング・ゴフマンによる「セルフトーク」(self-talk) という概念がある。「セルフトーク」は、「口に出して話し、自分自身に話しかけ、自分自身の意見の受取人と計画された唯一のものとして自分自身を構成する。または、自分自身の名前を呼び、現在発話を受け取ることができない誰かへの意見を言う。これはセルフ・コミュニケーションであり、とりわけセルフトークとする。」¹⁵⁾と定義されている。さらにセルフトークが発話された場合、聞き手は普通返事をしないとしている。

このセルフトークが単なる「独り言」と異なるのは、「独り言」が完全に聞き手の存在を想定せず、発話者に作用するものであるのに対し、セルフトークは必ず周りにいる他者、つまり聞き手との関係の中で受け取られるものであるという点である。「独り言」が発話者自身だけのものだとするならば、セルフトークは「他者に聞かせるための「独り言」」なのである¹⁶⁾。

例えば、周りに人がいる中で声を出して本を読んだりすると、無教養な人間だと思われかねない。しかし、口に出してセルフトークをするということで逆に達成することのできる行為もある。セルフトークを行い、口に出して自分の感情を表現することによって周りの人たちに自分自身がどのような期待を抱いているか、弁明をすることができるのである¹⁷⁾。

例えばトランスクリプト(I, IV)の二つ目の「なんだそれ」に対する「返答」はない。これは、隣接ペア第二成分の「返答」が不在なのではなく、この発言が「質問」の形を取ったセルフトークであり、隣接ペア第一成分ではないのでそもそも返答を求めないものなのである。「なんだそれ…」と声に出して発言することによって、何らかな感情を相手に示そうとしていると考えられる。詳しい分析については、本論で行う。

以上の先行研究で見てきた会話分析的要素を元に、次の章ではパラメーターを設定する。発話行為にかかわる項目とシークエンスにかかわる項目のほかに、それらの分析を補強する判断材料となる表情などの要素を組み込む。また、分析の手掛かりとして表情以外に、吹き出しの形や文字の大きさ、マンガ的表現などを挙げる。

¹⁵⁾ Goffman, Erving.(1981) *Forms of Talk*, University of Pennsylvania Press, p.79

¹⁶⁾ 前掲書、p.96

¹⁷⁾ 前掲書、p.86

3. 方法

本論の分析対象作品は、『よつばと！』（あずまきよひこ著/アスキー・メディアワークス刊）とし、翻訳を比較する文字テキストは、「何（だ）それ」とする。作品の中から「何（だ）それ」という文字テキスト¹⁸⁾を日本語版・ドイツ語版から採取し、その中から何例かを使って比較分析を行う。大きく分けて、翻訳の際に内容が大きく変わっている場合と変わっていない場合とでそれぞれ分析する。

その比較分析には、先行研究に見た会話分析的要素を取り入れたパラメーターを設定し、比較分析の指標とする。

本論では、マンガにおける文字の部分、特に吹き出しに入っている会話のテキストを文字テキストと呼ぶ¹⁹⁾。また文字テキストを引用する単位は吹き出しであり、一文が複数の吹き出しにまたがる場合は、その区切りに“//”を用いる。

3. 1. 対象作品『よつばと！』のあらすじ

『よつばと！』は2003年からアスキー・メディアワークス社で刊行されている、あずまきよひこによるストーリーマンガである。

5歳児の〈よつば〉²⁰⁾を主人公とし、子供の目線で見つめた日常生活における新しい発見や新鮮な感動を描くコメディである。〈よつば〉の父親である〈とーちゃん〉や、隣家の〈綾瀬家〉の人々、〈とーちゃん〉の友達など、〈よつば〉を取り巻く子供や大人たちの反応を交えて物語は進んでゆく。幼児が主人公であることから、言い間違いや聞き間違い、思いつきの冗談などが全編にちりばめられている。

2016年1月現在、13巻まで発売されている。

そのドイツ語版である *YOTSUBA&!* は、2007年から TOKYOPOP 社によって翻訳・発売されている。2016年1月現在、12巻まで発売されており、一貫して Marcus Wehner によって翻訳されている。

3. 2. 『よつばと！』における翻訳の特徴

他の翻訳マンガと比べたとき、ドイツ語版 *YOTSUBA&!* の翻訳の特徴は積極的な意識翻訳にあると考えている。元の日本語版文字テキストと比べると、ある意味でオリジナルに忠実に直訳的な文字テキストの多い他のマンガに比べて、*YOTSUBA&!* は日本語の文字テキストと比べると非常に内容の変更が多い。

それは、『よつばと！』というマンガの特徴である、ドイツ人が説明なしには理解しづらい内容を含む日本の日常的な事柄を扱っているためであると考えられる。しかし、それ以外の普通の会話部分においても、内容の変更されている場合が多くある。これも、『よ

¹⁸⁾ 本論は「何（だ）それ」という発話自体の意味・役割を問う目的のものではないため、「何だよそれ」など微妙な表現の違いについては、考慮しないものとする。

¹⁹⁾ マンガの画面の中の文字については、大塚（2015）で詳しく扱っている。

²⁰⁾ 登場人物の名前には〈〉を付けて表す。引用文字テキスト中ではこの限りではない。

つばと！』という作品に特徴的な、子供らしい話し方や冗談を含んだ会話が翻訳に工夫の必要を要求するためであるとも考えられる。いずれにせよ、何作品かのドイツ語翻訳版マンガを読み比べたところ、*YOTSUBA&!*は内容の変更と翻訳の工夫が凝らされた文字テキストが多い傾向にあった。

この *YOTSUBA&!*の変更の多い翻訳が本論の分析に適していると考え、対象作品とした。

3. 3. 分析パラメーターの設定

2章の先行研究で見た要素を元に、分析パラメーターを決定する。本論では「何（だ）それ」という日本語文字テキストとそのドイツ語翻訳文字テキストを比較するため、パラメーターは以下のようになる。

- ①発語内行為（日／独）
- ②評価表現（独）
- ③態度（日／独）
- ④第一ペア成分（日／独）

「①発語内行為」のパラメーターは、「何（だ）それ」の文字テキストの発語内行為を示す。日本語・ドイツ語それぞれについて表す。

「②評価表現」のパラメーターは、対象の文字テキストの内容にポジティブ・ネガティブな単語が含まれるかについて、ドイツ語について示す。ポジティブな場合は＋、ネガティブな場合は－と示す。日本語の場合を示さないのは、「何（だ）それ」は評価表現を含まない「発語内行為」が「質問」の文字テキストであり、どの例でも±を示すためである。

「③態度」は、対象の文字テキストがどのような態度を表明するものかを日本語・ドイツ語それぞれについて示す。ポジティブな場合は＋、ネガティブな場合は－である。「②評価表現」と一組にして分析し、それぞれのパラメーターの値が一致しなかった場合を、皮肉的な表現であると評価する。

また、このパラメーターでは、リアルタイムの会話分析においては声の調子や笑いなどの要素も関係してくるため、マンガではその代替表現になると考えられる、沈黙やエクスクラメーションなどの記号、吹き出しの形²¹⁾、表情などの視覚的表現からも分析を加える。

「④第一ペア成分」はシークエンスの観点からの分析を表すもので、対象とする「何（だ）それ」の文字テキストが隣接ペア第一ペア成分であり、返事を求めているかどうかを日本語・ドイツ語それぞれについて示す。第一ペア成分であるならば○、セルフトークであるならば×と表す。またそれを判断するために、実際に返事があるかどうか、返事の内容を見る。以上の4つが本論で用いる分析パラメーターである。

²¹⁾ 声が大きかったり激しい口調になったりすると、角のある吹き出しを使ってそれが示されることがある。

4. 本論

3章の方法で設定したパラメーターに沿って、実際の翻訳例を比較分析する。ドイツ語版において翻訳の内容が変更されている場合とされていない場合に大きく分け、分析を行う。

4. 1. 内容が変更されていない場合

「何(だ)それ」の内容が変更なく翻訳されている例について分析を行う。内容の変更がないと判断した具体的な翻訳例は、どの例でも„was“ (「何」を尋ねる疑問詞) から始まる文字テキストになっている。

①発語内行為		②評価表現	③態度		④第一ペア成分	
日	独	独	日	独	日	独
質問	質問	±	—	—	×	×

表1 トランスクリプト(I, IV)における(1)のパラメーター

一つ目の例は、先行研究の章でも例にした(I, IV)のうちの(I)である。ここでは、〈とーちゃん〉の(1a)「…なんだそれ」という文字テキストが、(1b)„Was soll das denn?“ (一体なんだというんだ)と翻訳されている。パラメーター「①発語内行為」は、日本語・ドイツ語共に「質問」である。発語内行為が「質問」であることを受けて、「②評価表現」は±である。

さらに、「③態度」については、日本語版では沈黙「…」が入ること、ドイツ語版では、質問を和らげ、不快や非難などの感情を帯びさせる場合のある心態詞„denn“や抗議的反問を表す助動詞„sollen“の使用から、どちらの場合も呆れの感情を表していると考えられ、日本語・ドイツ語共に—とする。

シークエンスの観点から見ると、(1)は直前の〈よつば〉の「わかっぱ——!!」及び„Aye, aye, Herr Kapitän!“ (アイアイ、船長殿!) という唐突な冗談に対する「質問」であると考えられる。(1)の直後の〈よつば〉の反応は「いまかんがえた」及び„Ist mir eben eingefallen.“ (今ちょうど思いついた) となっており、共に(1)に対する返事のように考えられる。

この返事に見える文字テキストには翻訳内容の変更はなく、どちらの場合も(1)に答えているが直接的な答えにはなっていない。

このやりとりは、〈とーちゃん〉の(1)が〈よつば〉の冗談に対する修復の開始であるようにも見えるが、直後の〈よつば〉の反応は(1)の「質問」に対する隣接ペアの「答え」にはなっていない。故に、(1)は「質問」の形をとっているが、返事を求めないセルフトークであると考えられる。この〈よつば〉の返事は、(1)に対する答えているのではなく、(1)と〈とーちゃん〉が言うことによって示した呆れの感情を読み取り、その困惑に対して自ら説明をしている。

ると考えられる²²⁾。「④第一ペア成分」は日本語・ドイツ語共に×である。

この例は、全ての項目が合致しており、翻訳によって変更された項目はない。

①発語内行為		②評価表現	③態度		④第一ペア成分	
日	独	独	日	独	日	独
質問	質問	±	—	—	○	○

表2 トランスクリプト(II)における(2)のパラメーター

次の例は、(I)の場面の後の展開で、〈よつば〉と〈恵那〉が自転車で出かけ、〈恵那〉の友達である〈みうら〉と合流した場面である。思いついた冗談が気に入ったのか、〈よつば〉は〈みうら〉とのやりとりでも「わかっぱー!!」を使い、初めてそれを聞いた〈みうら〉は(2a)「え!? なにそれ!?!」と言う。ドイツ語版では、(2b) „Hä? Was soll denn das?“ (えっ? いったいそれはなんだ?) となっている。「①発語内行為」は共に「質問」である。ポジティブ・ネガティブな表現は含まれていないので、「②評価表現」は±となる。

(I)とほとんど同じ文字テキストになっているが、違いは(2a)「え!?!」と(2b) „Hä?“ という間投詞があることであり、どちらも驚きを表す。また吹き出しも角のあるものになっており、(2a)では大きい文字、(2b)では大きめの文字で太字になっていることから、強い語調・大きな声で驚いていると考えられる。この驚きはポジティブなものというよりは、突然理解できない冗談を言った〈よつば〉をとがめる気持ちを含んでいると考え、「③態度」はどちらも—である。

シークエンス上の構成として、この文字テキストが修復の開始かセルフトークのどちらであるかを考えたとき、さらに後の会話も見必要がある。この会話がある次のコマで〈よつば〉が〈みうら〉が持っている一輪車に視線を向ける場面が描かれており、さらにその次のコマでは〈よつば〉が言葉を発さずに笑い、〈みうら〉が日本語版では「なんだ?」、ドイツ語版では „Was denn?“ (一体なんだ?) と言う。これらの一連のやりとりから、〈よつば〉の興味が一輪車に移ることで気が散り、それまでの会話の流れが断ち切れ、(2)に対する返答を放棄したように描かれている。(2)で〈みうら〉が修復の開始を行ったのだが、〈よつば〉による修復の操作はされず、修復が失敗した形である。そのため(2)の「質問」に対する「返答」が不在である状態と考え、「④第一ペア成分」は日本語・ドイツ語共に○である。

²²⁾ このときの〈よつば〉の表情が、白目の多い省略的な目の全体的なとぼけた表情として描かれていることから、〈よつば〉自身も自分がふざけていたことを自覚しているように見える。

①発語内行為		②評価表現	③態度		④第一ペア成分	
日	独	独	日	独	日	独
質問	質問	±	—	—	○	○

表3 トランスクリプト(III)における(3)のパラメーター

次の例は、〈よつば〉が〈とーちゃん〉、〈とーちゃん〉の友達の〈ジャンボ〉、〈やんだ〉と焼肉を食べに来た場面での会話である。〈ジャンボ〉に〈とーちゃん〉が作る料理の中で一番好きなものは何かと訊かれた〈よつば〉が「ソーセージ丼」を挙げる。それに対して、〈やんだ〉と〈ジャンボ〉がそれは何かと尋ね、〈やんだ〉が(3a)「ソーセージ丼!?何それ!?!」と言う。ドイツ語版では、(3b) „Würstcheneintopf?! Was’n das?“ (「ソーセージ煮込み」²³⁾?!なんだそれ?) となっている。「①発語内行為」は日本語・ドイツ語共に「質問」であり、「②評価表現」は共に±となる。

(3)は、(3a)「ソーセージ丼!?!」・(3b) „Würstcheneintopf?!“ という前半部と、(3a)「何それ!?!」・(3b) „Was’n das?“ 後半部から構成されている。前半部は直前の〈よつば〉の発言の(二)部分的繰り返し、後半部は「何」・ „was“ から始まる狙いのある質問である²⁴⁾。どちらも修復の開始の技法であり、この場合の修復開始の技法は驚きの感情を表している。この驚きの感情は、「ソーセージ丼」という未知なるものを聞きとがめたものであると考える。〈やんだ〉の表情も尖った白抜きの目であり、怒ったように見えるものとなっている。またイラスト的表現としては、頭の上に横向きの雷のような記号が描き込まれており、これも驚きを表している。「③態度」は日独共に—である。

シークエンスの観点から見ると前述したように(3)は修復を開始する第一ペア成分であり、それに対して〈よつば〉は日本語版では「ソーセージとー のりとー めだまやきとー //はいってる」、ドイツ語版では „Mit Würstchen und Spiegelei auf Reis. Sehr lecker.“ (ソーセージと目玉焼きをご飯に載せたもの。すごくおいしいよ)と「返答」しており、隣接ペアが成立している。「④第一ペア成分」は日本語・ドイツ語共に○である。

さらにこの後の文字テキストを見ると、〈よつば〉の説明を聞いた〈やんだ〉は、日本語では「おいおいなんだよそれー！ 超うまそうじゃん！」、ドイツ語では „Das ist ja die reinste kulinarische Offenbarung!“ (本当にそれは一番純粋なグルメの天啓だな)と反応している。白い上弦の半円目の目、上向きの眉、口を開けて責めるような表情をしているものの、〈よつば〉の言う「ソーセージ丼」及び „Würstcheneintopf“ についてポジティブな評価表現、

²³⁾ „Würstcheneintopf“ の „Würstchen“ は「小型のソーセージ」、 „Eintopf“ は野菜や肉の煮込みを指すため、直訳するとこのようになる。しかし、この直後の〈よつば〉による説明は、日本語に忠実な訳がされており、 „Mit Würstchen und Spiegelei auf Reis. Sehr lecker.“ (ソーセージと目玉焼きをご飯に載せたもの。すごくおいしいよ) となっており、明らかに煮込み料理の説明にそぐわない。「丼」を „Eintopf“ と対応させてしまったために起きた誤訳と考えられる。

²⁴⁾ (3)の直後の〈ジャンボ〉の発言は、「それはどんなのだ?」・ „So ein Eintopf halt.“ (まあ煮込み料理みたいなやつだろう) となっており、ドイツ語版では「質問」という第一ペア成分ではなくなり、翻訳の変更が起こっている。

態度を表している。(3)の文字テキストの評価表現と態度が一だったことと合わせて、この展開においては〈やんだ〉が非難めいた驚きを表していたが、本心はポジティブな態度でいたという印象の裏切りが日本語、ドイツ語どちらの文字テキストにおいても起きていることが分かる。この印象の裏切りによって、素直な反応をしない〈やんだ〉の子どもっぽさが強調されているように読むことが可能である。

本項で見た内容に変更のない「何(だ)それ」の翻訳例において、内容が等価である翻訳がなされているかどうかをパラメーターから見ると、日本語とドイツ語で全てのパラメーターが一致していることが分かった。

4. 2. 内容が変更されている場合

本項では、「何(だ)それ」という文字テキストの翻訳に内容の変更のおきている場合を取り上げて分析する。

①発語内行為		②評価表現	③態度		④第一ペア成分	
日	独	独	日	独	日	独
質問	陳述	+	—	—	×	×

表4 トランスクリプト(I, IV)における(4)のパラメーター

例文(IV)は、(I)の直後に繰り返されるほとんど同じ文字テキストにも関わらず(I)と翻訳が異なる。シークエンスの構成も(I)と異なっており、〈よつば〉が(1)のときと同じ冗談を言い、その直後に〈よつば〉が笑っている文字テキストがあり、それに対して〈とーちゃん〉が(4a)「なんだよそれ…」・(4b)„Sehr lustig.”²⁵⁾(すごく面白いな。)と反応する形になっている。「①発語内行為」は、日本語版は「質問」だが、ドイツ語版は翻訳の変更によって「陳述」となっている。「②評価表現」については、„lustig”(面白い)という単語が含まれるため、+とする。

「③態度」のパラメーターは、日本語版では「…」沈黙があることから、呆れの感情が読み取れるため、マイナスとする。(4b)は、「②評価表現」が+ではあるが、むしろ本意は〈よつば〉の冗談に呆れているのを皮肉的に表現しているものと考え、—とする。

シークエンス上の観点から見ると、(4a)、(4b)ともに〈よつば〉の冗談に対して「呆れ」

²⁵⁾ (1)のやりとりの直前にある〈とーちゃん〉の文字テキストを見るとドイツ語版でこの部分は、„So wie, als wir einkaufen waren, Papa... .. werde ich alle Verkehrregeln beachten!”(私たちが買い物行った時みたいだね、パパ…すべての交通ルールを守るよ!)となっている。„Papa”という呼びかけを含むことから、話者が〈よつば〉に変更されていると考えられる。この変更についての分析は本論の主旨から外れるので詳しくは踏み込まないが、話者が変更されている文字テキストがあることについては言及しておきたい。また連続の場面で話者変更の翻訳が見られることから、(4b)の文字テキストも話者が変更されて〈よつば〉が「すごく面白い！」という内容の文字テキストである可能性もあるが、本論では〈とーちゃん〉の発話として分析を行う。

の感情と態度を示しているセルフトークであると考えられる。(4)に対する〈よつば〉の返答もない。よって、「④第一ペア成分」は日本語・ドイツ語共に×である。

(IV)では、(4b)の「①発語内行為」と「②評価表現」の項目が変更されており、文字テキストの具体的な内容では評価プラスマイナスの質問から評価プラスの陳述へ変わっている。ドイツ語版では「②評価表現」と「③態度」の不一致による皮肉表現で呆れの態度が表わされていた。しかし、この二項目が変わっても「③態度」は共に－であり変更がない。また、シークエンス上の観点からも、セルフトークであることも変わらない。

つまり、この翻訳例における内容の変更は、「①発語内行為」と「②評価表現」のパラメーターにおいて行われており、これらの要素が変更されても文字テキストが表わす「③態度」は変化しないということが分かる。またシークエンス上の働きも変わらない。

①発語内行為		②評価表現	③態度		④第一ペア成分	
日	独	独	日	独	日	独
質問	陳述	+	－	－	×	×

表5 トランスクリプト(V)における(5)のパラメーター

次の(V)の場面は、夏休みの宿題をしている隣家の少女〈恵那〉とその友達の〈みうら〉を見て、〈よつば〉も「宿題」をしてみたいと思い立ち、自由研究と称して、Tシャツに様々な不用品をテープで張り付けたものを完成させる。それを見せられた〈とーちゃん〉が(5a)「なんだそれ」、ドイツ語版では(5b) „... Gewagtes Design.“ (…大胆なデザインだな) と言う。

「①発語内行為」は(5a)では「質問」だが、(5b)では「陳述」に変更されている。また、「②評価表現」の点においても、(5b)では„gewagt“ (大胆な) という語を使っており、これはポジティブにとれる語であるため、＋とする。

イラストの〈とーちゃん〉の表情の楕円に縦線の入った眼、開かれた口、頬に描き込まれた汗の粒などから呆れを表していると考え、(5a)の「③態度」の値は－とする。(5b)には、言い淀んでいる沈黙「…」もあり、前述の呆れた表情と合わせて考えると、「②評価表現」の値は＋であるのと合わせ、皮肉的に呆れを表していると考え、－とする。皮肉によって呆れの感情を表す例は、(IV)も同じである。

シークエンス的な観点から見ると、(5)の文字テキストの対象は、後のコマで奇妙なTシャツを着た〈よつば〉が描かれるために、呆れの対象が後ろに来るという特徴を持っている。そして、そのときの〈よつば〉の「返答」に見える文字テキストは日本語版では「りさいくる」、ドイツ語版では„Recycling!“ (リサイクル!) となっている。(5a)の「質問」に対する「返答」があり、隣接ペアが成立しているように見える。しかし、(5a)は「質問」の形を取って、呆れや驚き、軽い非難を表しているセルフトークと考え、それに対する〈よつば〉の返答は、(5a)に対する「返答」であるというよりも、(5a)で示される〈とーちゃん〉の困惑

に気付き、自主的に説明をしていると考えられる。この「質問」の形を取った「呆れ・驚き」のセルフトークと言う発話は、(I)に似ている。

また、ドイツ語版の文字テキストでは、(5b)と直後の〈よつば〉の発話は「質問—返答」という隣接ペアを構成していない。(5b)は皮肉的に呆れを表すセルフトークであると考えられ、〈よつば〉の反応は日本語と同じように困惑を察した〈よつば〉が、自分の発明品を自慢げに説明してみせていると考えられる。

よって、「④第一ペア成分」は日本語・ドイツ語共に×である。

(V)では (IV)と同じように、ドイツ語版では「①発語内行為」は陳述に変わるが、「③態度」は「②評価表現」のポジティブ表現を皮肉的に取り、日本語版と同じく呆れを表していた。つまり、内容の変更は「①発語内行為」と「②評価表現」に起きているが、「③態度」は日本語版から変更がなく、またシークエンス上の働きにも変更がない。

①発語内行為		②評価表現	③態度		④第一ペア成分	
日	独	独	日	独	日	独
質問	陳述	—	—	—	×	×

表6 トランスクリプト(VI)における(6)のパラメーター

(VI)の場面は、バドミントンの試合をしている〈とーちゃん〉と〈ジャンボ〉、その審判をしている〈よつば〉。どちらが点を獲ったか判定をする〈よつば〉が「ひも²⁶⁾をす——ってとおりぬけた」とありえない判定をしたのを真に受け、〈とーちゃん〉と〈ジャンボ〉がバドミントンのルールについて議論を始めたのに対し、二人の喧嘩を傍観していた〈恵那〉と〈みうら〉のうち〈みうら〉が(6a)「なんだそれ」、ドイツ語版では(6b)„Was für ‘ne kranke Diskussion.“ (なんて病的な討論だ) と言う。

「①発語内行為」は(6a)では「質問」だが、(6b)では「陳述」に変更されている。また、「②評価表現」のパラメーターは、„krank“ (病んだ) という語を含むためである。

「③態度」については、(6a)では〈とーちゃん〉と〈ジャンボ〉の「バドミントンにおいてネットの通り抜けはどちらの点数になるか」という非常識なことを下敷きにした低レベルのやりとりに対して、(6a)では〈みうら〉が「質問」の形を取って呆れの感情をセルフトークによって示していると考えられ、—とする。(6b)では、「②評価表現」が—の語を含み、また„was für“ (なんという～だ) という感嘆を表す表現から始まっているために、呆れを表していると考えられるため、—とする。また表情も眉根を寄せたものになっていることから、やはり「③態度」が—である補強要素となる。

「④第一ペア成分」については、(6a)はセルフトーク、(6b)は「陳述」であることから、共に×であり、さらに(6)のあとの文字テキストは、〈恵那〉と〈みうら〉がその場にいるこ

²⁶⁾ この場面では、公園の一角という整備されていない場所でバドミントンする都合上、片方は街灯に結び付け、もう片方を〈よつば〉が持って紐を張ることによってネットの代わりにしている。

とに気付いた〈とーちゃん〉による挨拶なので「返答」がないことから明らかである。

この例の特徴的な点は、(6b)において「②評価表現」のパラメーターがマイナスとなることである。表情と合わせて、積極的に呆れの感情を表す表現に変更されていると考えられる。呆れの感情自体は、日本語版においても「質問」の形を取りながら〈とーちゃん〉や〈ジャンボ〉に対する呆れをセルフトークによって示しており、「③態度」パラメーターは変更がない翻訳になっていると考えられる。

①発語内行為		②評価表現	③態度		④第一ペア成分	
日	独	独	日	独	日	独
質問	要求	±	－	－	×	×

表7 トランスクリプト(VII)における(7)のパラメーター

(VII)の場面では、カエルを捕まえて〈恵那〉と遊んでいる〈よつば〉のもとに、カエルを見せられるのを恐れて〈よつば〉が嫌いな鳥よけの大きな目玉の覆面をした状態で〈みうら〉がやってくる。覆面の模様を怖がる〈よつば〉を面白がってからかいすぎ、〈よつば〉を泣かせた〈みうら〉を懲らしめてやろうと〈恵那〉が〈みうら〉の目の前にカエルを突きつける。それに対して〈みうら〉が、(7a)「わっ//なんだそりゃー!!」、(7b)„Weg! Bleib bloß weg!“（どけて！ さっさとあっち行って！）と叫ぶ。

「①発語内行為」については、(7a)は「質問」であり、(7b)は「要求」である。「②評価表現」は、ポジティブ・ネガティブどちらの表現もないため±とする。

(7)の文字テキストは、視覚的な効果を見ると太く大きい文字になっていること、吹き出しが角のあるタイプのものが使われていることが特徴的である。〈みうら〉がカエル嫌いであるという事実と後ずさっている様子、また(7a)の前半「わっ」という部分が驚きを表す間投詞であることから、驚きと嫌悪感を表していると考え、日本語の「③態度」は－とする。(7b)の前半部分は„Weg!“（どける！）と「要求」の「①発語内行為」に翻訳されているが、全体としては「どける！」という「要求」からドイツ語の「③態度」は－とする。

シークエンスの観点から見ると、(7a)は「質問」の形を取って驚きを表すセルフトークであると考え、「④第一ペア成分」のパラメーターは×である。一方(7b)では、「要求」という発語内行為を行っているもののカエルを持っている〈恵那〉はますますカエルを突きつけるばかりであり、(7b)に対する「返答」及び「返答」的な行為を行っていない。ここから、〈恵那〉は(7b)の発話を、第二ペア成分を必要とする第一ペア成分として受け取っていないと考え、「④第一ペア成分」のパラメーターは同じく×である。

(VII)の例は、「①発語内行為」が異なるがそれ以外のパラメーターが日独一致するという結果が出た。「①発語内行為」が異なりながら、どちらも相手にネガティブな「③態度」を伝える文字テキストであるためである。

①発語内行為		②評価表現	③態度		④第一ペア成分	
日	独	独	日	独	日	独
質問	質問	+	－	+	×	×

表8 トランスクリプト(VIII)における(8)のパラメーター

(VIII)は、(III)で焼肉に行く前の出発の場面である。〈やんだ〉を待つ間にしていた雑談を打ち切って立ち上がり、〈とーちゃん〉が〈よつば〉に焼肉店に出発することを告げて呼ぶ。駆け寄ってきた〈よつば〉は〈とーちゃん〉と、オリジナルの歌を歌いながら手遊びを始める。それを見た〈やんだ〉が、(8a)「え!?何それ!?」、ドイツ語版では(8b)„Wow! Ist das ein neues Spiel?!“（おっ！それ新しい遊びか?!）と言う。

「①発語内行為」は、(8a)では「質問」であり、(8b)も同じく「質問」である。「②評価表現」については、(8b)の発語内行為は「質問」であるが、前半部の„Wow!“が喜びを含んだ驚きを表す間投詞であること、また„neu“（新しい）と言う形容詞がポジティブな表現であることから、「②評価表現」は＋とする。

(8)の文字テキストには、(VII)の例と同じように、太い文字で角のある吹き出しが使われている。また、表情は白い逆三角形の目、開かれた口から、非難を含んだ驚きを表していると考えられる。(8a)では「え!?」という驚きを表す間投詞が使われており、「③態度」は－とする。一方(8b)では前述したように、„Wow!“という喜びを含んだ驚きの間投詞が使われているため、ドイツ語の「③態度」のパラメーターの値は、表情と不一致となるが「②評価表現」とは一致する、＋とする。

シークエンスの観点からは、(8a)は「質問」という発話行為により、修復の開始をしたように見えるが、見とがめた対象は〈よつば〉と〈とーちゃん〉の手遊びであり、〈やんだ〉はその両者と会話をしておらず、手遊びを見て(8a)の発言を割り込ませている。また、(8)の直後の文字テキストは、〈やんだ〉の「よつば それ俺ともやろうぜ」、及び„Ich will mitspielen, Yotsuba.“（俺一緒に遊びたいよ、よつば）であり、〈やんだ〉自身が返事を不要にしている。(8a)前半部の「え!?」は修復を開始する第一ペア成分の「質問」であるというより驚きを表していると考え、(8a)全体をセルフトークであると考え。そのため、日本語の「④第一ペア成分」は×である。(8b)の場合も同じように(8b)全体が驚きを表すセルフトークをと考え、「④第一ペア成分」は×である。

(VIII)では、「①発語内行為」が日本語・ドイツ語共に「質問」であり、シークエンス的にも直後の発言で自分から返事を不要にしている点も同じである。

しかし、「②評価表現」と「③態度」はドイツ語版においてプラスに変更されている。この変更によって、ドイツ語版の文字テキストは日本語版のコメディ的な部分を先取りして表現していると考えられる。(8a)では、ニュートラルな「え!?何それ!?」という文字テキストに加え、非難を含むようなマイナスの表情から、〈やんだ〉が〈よつば〉の手遊びに対してどちらかと言えばネガティブな驚きを表しているように読むことが可能である。しかし、ペ

ージが変わって次のコマでは、「よつば それ俺ともやろうぜ」と続けることから、前のコマの印象を裏切って、〈やんだ〉は実は手遊びを好意的に受け取っていたことが分かる。この展開によって、〈やんだ〉の子どもっぽさが浮かび上がってくると考えられる。しかし、(8b)では、„Wow!“という間投詞を使うことによって、(8b)の文字テキストの時点で〈やんだ〉のポジティブな驚きを表現しており、直後の„Ich will mitspielen, Yotsuba.“という文字テキストとのつながりの中には、日本語版にあった印象の裏切りはない。

一連の流れから表される印象の裏切りは、(III)の場面でも行われていたが、日本語・ドイツ語共に印象の裏切りが残るよう翻訳していた(III)とは異なり、(VIII)の場面ではドイツ語版文字テキストの翻訳からは印象の裏切りが起こらないように翻訳が変更されている。

この翻訳の変更は、〈やんだ〉の性格が異なって受け取れるほどの大きい変更ではないが、日本語とドイツ語版では文字テキストの読まれ方が異なるのは明らかであろうと考えられる。イラストや文字テキストに直接冗談が表わされるのではなく、会話のやりとりの中に印象の裏切り、どんでん返しが含まれるような(VIII)のような例がどのように翻訳されているかによって、会話の読まれ方が実は大きく変わってしまうような場合があるということが分かる。

この項では、翻訳の際に内容の変更がある「何(だ)それ」について見た。翻訳内容の変更は主に「①発語内行為」に起こり、シークエンス上の役割が変更されることはなかった。つまり、内容の等価翻訳は、「①発語内行為」のパラメーターではなく、シークエンス上の役割に起きる傾向があるとパラメーターからわかった。また内容の変更があるような「何(だ)それ」の文字テキストは、返事を必要としないセルフトークである傾向があり、この特徴からは驚きや呆れを表すセルフトークをドイツ語で表すとき、「①発語内行為」は「質問」ではなく皮肉的な「陳述」によって表す傾向が読み取れる。

また(8)の翻訳例から、「③態度」のパラメーターに変更がおきている場合があることが分かった。多くの場合は「③態度」のパラメーターの値は日本語・ドイツ語の文字テキストで一致するのだが、この部分に変更された場合、発話単体ではなく会話の流れの読み方が変わることが考えられる。

5. 結論

本論は、『よつばと!』における「何(だ)それ」という文字テキストを取り上げ、その中からドイツ語版翻訳において内容が変更されている場合とされていない場合に分けて分析を行った。分析においては、発話行為論、会話分析的な要素から「発話行為」と「シークエンス」の観点から設定したパラメーターを用いた。また、文字テキストの内容だけではなく、文字の大きさや吹き出しの形、コマに描かれた人物の表情やマンガ的補助記号なども分析要素に加えた。

パラメーターの設定のために、分析に必要な概念について部分的にはあるが発話行為

論と会話分析的要素を見た。発話行為論には、発話によってなされる行為である「発話内行為」と、発話が示す感情である「発話媒介行為」がある。また会話分析的要素から、一連の会話の流れの中で「何（だ）それ」が担い得る役割である「修復の開始」と「セルフトーク」について見た。両者の違いは、「修復の開始」の場合は実際の会話中での成功・失敗に限らず、隣接第一ペア成分として返答を強く期待するのに対し、「セルフトーク」はいわば「相手に聞かせるための独り言」であり、返答を期待しない点にある。

内容に変更のない翻訳例では、日本語・ドイツ語のパラメーターが一致していた。この結果から、発話行為、シークエンス、評価の点において、等価の翻訳がなされていると考えられる。

一方内容の変更のある翻訳例では、特に「①発話内行為」において相違が見られ、他の項目に関しては一致する傾向が見られた。内容の変更といっても、相手に示す態度や感情、会話の中でのシークエンス上の役割は変わらないということが分かった。また、翻訳に内容の変更がある場合の文字テキストは、返事を必要としない驚きや呆れを表すセルフトークである傾向が強かった。これがドイツ語翻訳における傾向であるかは、さらに例を集めて分析を重ねたい。

ただし、今回集めた中では1例のみであったが、「③態度」のパラメーターが日本語とドイツ語で不一致となる翻訳例があった。その場合、単体の文字テキストだけではなく一連の会話の流れの理解が変わると考えられ、そのような変更のある翻訳についても分析を進めたいと考えている。

ここから、日本語における「何（だ）それ」という文字テキストの多義性と、それを翻訳する際のドイツ語における表現方法が明らかになったと考える。

文字テキスト「何（だ）それ」のパラメーター分析からは、文字テキストによって表そうとしている態度・感情は変更されることなく、それを表現する手法が変更され、それが内容の変更となって表れていることが明らかになった。そして、この結果を得るために用いた発話行為論や会話分析的要素を翻訳分析に取り入れることの有効性も、本比較分析を通して示すことができたと考える。

翻訳の比較分析においては、受け入れ国側との文化の違いを元にした翻訳の変更が目につきがちである。またその分野における翻訳も特徴的なものとなる。しかし本論は、会話の中でどのようなやり取りがあるか、どのような手法によって会話の目的を達成するかということに注目し、それらの要素がどのように翻訳において反映されているかを分析の観点として新しく提示するものである。つまり、翻訳の際に優先的に残るのはどの要素化をパラメーター分析から見るものであり、本論の分析においては翻訳の等価性を明示的にする結果が得られたと考え、その有用性を示したものである。また、今後は、優先的に残る要素がなぜ残るのかについても分析を深めてゆきたい。

参考文献

- Austin, John.(1955) *How to Do Things with Words*, Oxford University Press
- Azuma, Kiyohiko.(2007-2013) *Yotsuba&!*, Übersetzer:Wehner, Marcus, 1-11Bde, TOKYOPOP
- Goffman, Erving.(1981) *Forms of Talk*, University of Pennsylvania Press
- Searle, John.(1969) *Speech Acts:an Essay in the Philosophy of Language*, Cambridge University Press
- あずまきよひこ (2003-2013) 『よつばと！』 1-12 巻、アスキー・メディアワークス
- ウンサーシュッツ・ジャンカーラ (2010) 「人気マンガのコーパスで見る文字表現の分類について」『日本マンガ学会第 10 回大会プログラム・発表要旨集』、京都
- オースティン、ジョン (1978) 『言語と行為』 坂本百大訳、大修館書店
- 大塚萌、「ドイツにおける日本サブカルチャー受容の変遷——日本マンガ『新世紀エヴァンゲリオン』における呼称表現の翻訳」、『人文社会科学研究』、千葉大学大学院人文社会科学研究科、第 30 号、pp.158-176、2015 年
- ゴッフマン、アーヴィング (1980) 『ゴッフマンの社会学 4 集まりの構造——新しい日常行動論を求めて』 丸木恵祐・本名信行訳、誠信書房
- サール、ジョン (1986) 『言語行為 言語哲学への試論』 坂本百大・土屋俊訳、勁草書房
- サックス、ジェファソン・シェグロフ、エマニュエル・ジェファソン・ゲール (2010) 『会話分析基本論集——順番交替と修復の組織』 西阪仰訳、世界思想社
- ジョージ、サーサス・ハロルド、ガーフィンケル・ハーヴィー、サックス・シェグロフ、エマニュエル (1989) 『日常性の解剖学——知と会話』 北澤裕・西阪仰訳、マルジュ社
- 西阪仰 (1997) 『認識と文化 13 相互行為分析という視点——文化と心の社会学的記述』 金子書房
- 前田泰樹・水川喜文・岡田光弘編 (2007) 『ワードマップ エスノメソドロジー 人びとの実践から学ぶ』 新曜社
- 山崎敬一編 (2004) 『実践エスノメソドロジー入門』 有斐閣
-

資料編：トランスクリプト

(I, IV) 〈小岩井〉家門の所で、〈とーちゃん〉は門の内側、〈よつば〉と〈恵那〉は門の外側にいる

ページ(独)	コマ	文字テキスト、イラスト表現
36(37)	1	門の内側にいる〈とーちゃん〉の後ろから〈よつば〉を正面に捉えた構図 〈とーちゃん〉とーちゃんと貰い物行く時みたいにお交通ルールを守って安全運転だぞ？ 〈よつば〉So wie, als wir einkaufen waren Papa... .. werde ich alle Verkehrregeln beachten! (私たちが貰い物行った時みたいにおね、パパ...すべての交通ルールを守るよ！) 画面に向かって後ろを向いている 〈よつば〉わかっぱ——!! 〈よつば〉Aye, aye, Herr Kapitän! (アイ、アイ、キャプテン殿！) 大きく見開いた目、口を大きく開け、眉が上向きの表情、〈よつば〉に向かって集中線 敬礼をする (日)太い字、角のある吹き出し (独)太い字
	2	前のコマとほとんど同じ構図 (1a)〈とーちゃん〉...なんだそれ (1b)〈とーちゃん〉... Was soll das denn? (一体なんだというんだ) 画面に向かって後ろを向いている 〈よつば〉いまかんがえた 〈よつば〉Ist mir eben eingefallen. (今ちようど思いついた) 白めの多い丸い目のとぼけた表情
	3	1, 2コマ目とは逆に、門の方から家の方を見た構図、〈よつば〉が後ろの〈恵那〉を振り返っている 〈とーちゃん〉まあいいや じゃあ恵那ちゃん今日は教官ね Na schön. Pass du bitte auf Yotsuba auf, Ena! Quasi als ihre Mentorin. (まあいいよ。恵那ちゃん、よつばのこと見張っててやって。よつばの指導者みたいなものだね) 〈恵那〉に笑いかけている 〈恵那〉へ？ 教官？ Als ihre Mentorin? (指導者としてですか？) 画面に向かって後ろを向いている 〈とーちゃん〉うん こいつが変な運転したら厳しくしかってくれ Genau. Keine falsche Bescheidenheit. Schimpf ruhig mit ihr, wenn sie Faxen macht, okay? (その通り。変に遠慮しないでいいから。よつばがバカなことしたら構わず叱って、いいね？)
	4	〈恵那〉の顔のアップ 〈とーちゃん〉安全運転を教えてやって Vor allem auf der Straße. (特に路上で)

	コマの中に描かれていない 〈恵那〉わ わかりました！ I... ich werd mir Mühe geben. (わ…私ががんばります) 眉が上向きだが、右頬に汗を浮かべている
5	1, 2コマ目とほとんど同じ構図 〈とーちゃん〉よし じゃあいつてらっしゃい 気をつけてな Fahrt vorsichtig, ja? Bis später. (気を付けていくんだぞ、いいな？またあとでな) 画面に向かって後ろを向いている 〈よつば〉わかっぱ——!! Aye, aye, Herr Kapitän! (アイ、アイ、キャプテン殿！) 目をきつくつぶり、口を大きく開け、眉が上向きの表情、〈よつば〉に向かって集中線 敬礼をする (日)太い字、角のある吹き出し (独)太い字
6	1, 2コマ目とほとんど同じ構図 〈よつば〉あははははは あははははは Ha ha ha ha ha! (はははははは！) 目をつぶり、口を大きく開いて大笑い、〈よつば〉に向かって集中線 腹に両手をあてている (日)太い字、角のある吹き出し (独)太い字 (4a)〈とーちゃん〉なんだよそれ… (4b)Sehr lustig. (すごく面白いな) 画面に向かって後ろを向いている

あずまきよひこ (2007) 『よつぱと!』7巻、アスキー・メディアワークス、p.36

Azuma, Kiyohiko.(2009) Yotsuba&!, Übersetzer:Wehner, Marcus, Bd.7, TOKYOPOP, S.37

(II) マンションの入り口で、〈よつば〉、〈恵那〉、〈みうら〉が話している、マンションを背にして〈みうら〉が立ち、他の二人と向かい合っている

ページ(独)	コマ	文字テキスト、イラスト表現
43(44)	1	〈よつば〉の後ろからマンションの方を向いている構図 〈みうら〉いいか？ 誰にも言うなよ？//秘密だぞ Du darfst es keinem verraten. // Es muss geheim bleiben! (誰にも言っちゃだめだぞ。//秘密 しておかなきゃいけないよ) 〈よつば〉を見おろし、半眼になっている 「しー」と吹き出し外に文字テキスト 〈よつば〉うん… わかった Geht klar. Hab verstanden. (うん。わかった) 画面に向かって後ろを向いている
	2	〈よつば〉の顔のアップ 口を少し開き、頭の上に気付きの記号
	3	〈みうら〉の後ろから〈よつば〉を表面に見下ろす構図 口を少し開いた表情、顔の右上に気付きを表すマーク 〈よつば〉わかつぱー!! Aye, aye, Kapitän! (アイ、アイ、キャプテン！) 上弦の半円の白い目に大きく開けた口、上向き of 眉の表情、〈よつば〉に向かって集中線 敬礼をしている (日)太い文字、角のある吹き出し (独)太い字 (2a)〈みうら〉え!? なにそれ!? (2b)Hä? Was soll denn das? (えっ? いったいそれはなんだ?) 画面に向かって後ろを向いている (日)太い文字、角のある吹き出し (独)太い字
	4	〈よつば〉を正面に捉え、〈みうら〉が手で支えている一輪車が手前にある構図 口を少し開いた表情で、〈よつば〉の視線が一輪車に注がれている 敬礼をした手が下がりがけている
	5	〈よつば〉を正面に捉える構図は同じ、顔のアップ 満面の笑みを浮かべる〈よつば〉 「にー」と吹き出し外の文字 〈みうら〉なんだ? Was denn? (一体なんだ?) 斜め後ろから描かれた顔、少し口をあけ、右頬に汗をかいている

あずまきよひこ (2007) 『よつばと!』7巻、アスキー・メディアワークス、p.43

Azuma, Kiyohiko.(2009) Yotsuba&!, Übersetzer:Wehner, Marcus, Bd.7, TOKYOPOP, S.44

(III) 〈よつば〉、〈とーちゃん〉、〈ジャンボ〉、〈やんだ〉の4人が円卓を囲み、焼き肉を食べている

ページ(独)	コマ	文字テキスト、イラスト表現
110	1	〈よつば〉を正面に捉え、向かって右に〈ジャンボ〉を横からとらえる構図 〈ジャンボ〉よつばはとーちゃんの料理で何が一番好きだ？ Und was ist dein Lieblingsgericht, Yotsuba? (それで、一番のお気に入りなんだ、よつば？) 口を開けた笑顔、右手で箸を持ちながら、右にいる〈よつば〉の方に目をやっている 〈よつば〉カレー！//とーちゃんのカレーはせかいいちうまい！ Curry mit Reis! // Papas Curry ist das beste der Welt! (カレーライス！//パパのカレーは世界一！) 口を大きく開いて笑っている、立って左手を挙げている (日)太い字、角のある吹き出し (独)太い文字
	2	〈よつば〉の後ろから、テーブルの正面の〈やんだ〉と向って左隣の〈ジャンボ〉を正面からとらえる構図 〈よつば〉あとソーセージどん Und Würstcheneintopf. (それと「ソーセージ煮込み」) 後ろを向いている (独)太い文字 (3a)〈やんだ〉ソーセージ丼? 何それ!? (3b)Würstcheneintopf?! Was ´n das? (「ソーセージ煮込み」?!なんだそれ?) 上弦の白い半円の目、口が開いている表情、頭の上の驚きの記号 (日)太い文字、角のある吹き出し (独)太い文字 〈ジャンボ〉それはどんなのだ？ So ein Eintopf halt. (まあ煮込み料理みたいなやつだろう) メガネのレンズが白く描かれ、口を開けている、〈よつば〉の方を向いている 角のある吹き出し
	3	〈やんだ〉の顔のアップ 〈よつば〉ソーセージとー のりとー めだまやきとー//はいってる Mit Würstchen und Spiegelei auf Reis. Sehr lecker. (ソーセージと目玉焼きをご飯に載せたもの。すごくおいしいよ) コマの中に描かれていない 〈やんだ〉おいおいなんだよそれー！ 超うまそうじゃん！ Das ist ja die reinste kulinarische Offenbarung! (本当にそれは一番純粋なグルメの天啓だな) 白い上弦の半円の目、上向きの眉、口を開けて責めるような表情

あずまきよひこ (2009) 『よつぱと!』9巻、アスキー・メディアワークス、p.110

Azuma, Kiyohiko. (2010) Yotsuba&!, Übersetzer: Wehner, Marcus, Bd.9, TOKYOPOP, S.110

(V) 〈恵那〉と〈みうら〉が夏休みの宿題をしているのを見て、〈よつば〉は一人で「自由研究」と称し、奇妙な衣装を完成させ、〈とーちゃん〉に知らせに行く

ページ(独)	コマ	日本語(文字テキスト、イラスト表現)
20(22)	1	〈小岩井〉家を外側から見上げる構図 〈よつば〉と——ちゃ——ん!! Paaapaaa! (パーパー！) コマの中に人物は描かれていない (日)太い文字、角のある吹き出し (独)太い文字
	2	部屋の入り口から床の上におおむけに寝転がっている〈とーちゃん〉を見ている構図 口を開け、弛緩した表情
	3	〈とーちゃん〉の顔のアップ (5a)〈とーちゃん〉なんだそれ (5b).. Gewagtes Design. (…大胆なデザインだな) 口をあけ、白い楕円に線の入った猫のような眼、呆れた表情、左ほほに汗をかいている
	4	ドアの前に立つ〈よつば〉をあおりで正面からとらえた構図 〈よつば〉りさいくる Recycling! (リサイクル！) 眉毛が上向き、口を大きく開けた得意げな表情 奇妙な衣装を着て腰に手を当ている

あずまきよひこ (2006) 『よつばと！』 6巻、アスキー・メディアワークス、p.20

Azuma, Kiyohiko.(2008) Yotsuba&!, Übersetzer:Wehner, Marcus, Bd.6, TOKYOPOP, S.22

(VI) 公園で〈よつば〉が審判をし、〈とーちゃん〉と〈ジャンボ〉がバドミントンをしていて点数について言い争っているところに、〈恵那〉と〈みうら〉が通りかかる

ページ(独)	コマ	文字テキスト、イラスト表現
22	1	〈よつば〉と、〈とーちゃん〉・〈ジャンボ〉が向かい合っているのを、〈よつば〉を正面からとらえた構図 〈よつば〉ひもをす——つてとおりぬけた ... dann ging der Ball quer durch das Netz hindurch! (…そしたら、ボールがネットを通り抜けて行った！) 白目の多い丸い目に口を開き、うわ向きの眉、顔中に汗をかいている 〈とーちゃん〉・〈ジャンボ〉ええっ?! Wie?! (なんとまあ?!) 〈ジャンボ〉は画面に向かって後ろを向いている 〈とーちゃん〉は目と口を開き驚いた表情、右頬に汗をかいている (日)太い文字、角のある吹き出し、コマの中心に向かって集中線 (独)太い文字
	2	向かい合っている〈とーちゃん〉と〈ジャンボ〉のそばに、〈恵那〉と〈みうら〉が並んで立っているのを〈ジャンボ〉の後ろからとらえた構図 〈ジャンボ〉通り抜けはどっちだ? アウトか!? セーフか!? Was bedeutet das?! Foul oder nicht?! (どうのことだ?!ファウルか、そうじゃないのか?!) 画面に向かって後ろを向いている 角のある吹き出し (独)太い文字 〈とーちゃん〉うーん… 俺もそこまでルールに詳しくは Hm, gute Frage. So gut kenn ich mich mit Badmintonregeln nicht aus … (うーん、いい質問だ。俺もバドミントンのルールにそうよく知らない…) 下向きの細い三角の白い目、口を薄く開け、右頬に汗をかいている 腕を組み、右手を顎にかけている (6a)〈みうら〉なんだそれ (6b)Was für `ne kranke Diskussion. (なんて病的な討論だ) 眉がやや下向きになり、口を薄く開け呆れた表情 〈恵那〉は目をつぶった笑顔

あずまきよひこ (2005) 『よつばと!』4巻、アスキー・メディアワークス、p.22

Azuma, Kiyohiko.(2007) Yotsuba&!, Übersetzer:Wehner, Marcus, Bd.4, TOKYOPOP, S.22

(VII) 〈よつば〉と〈恵那〉が〈恵那〉の部屋で〈よつば〉の捕まえてきたカエルを見ていると、カエルが嫌いな〈みうら〉が〈よつば〉の怖がる鳥よけの目玉模様の描かれた覆面をしてはいってきて、それを見た〈よつば〉が泣き出す

ページ(独)	コマ	文字テキスト、イラスト表現
158	2	向きあった〈恵那〉と〈みうら〉を〈恵那〉の後ろからとらえる構図 〈恵那〉だ だめじゃないみうらちゃん よつばちゃん泣かして！ Miura, was soll der Blödsinn? Nun sieh, was du angerichtet hast (みうらちゃんなんてバカなことを？見なさいよ、自分がやったとんでもないことを) 上向きの眉に口をあけ、怒った表情 こぶしを握って腕を下におろす (日)角のある吹き出し、〈恵那〉に向かって集中線 (独)太い文字 〈みうら〉わ 私はみうらじゃないよー I.. Ich bin nicht Miura. (わ、私はみうらじゃないよ) 覆面のせいで表情はわからないが右頬に汗の粒が描かれている 左腕を軽く上げて体を引いている
	3	〈みうら〉の後ろに〈よつば〉を立てているのを正面からとらえた構図 〈みうら〉目の玉花子です//あっちの田んぼから来ました Ich bin das Augenmonsterchen. // Und ich wohne in dem Reisfeld dort drüben. (私は目玉お化けちゃんです。//それで、私はあっちの田んぼに住んでいます) 覆面のせいで表情はわからないが、左ほほに汗をかいている 右腕を挙げ、右を差している 大粒の涙を浮かべ口を開けて〈よつば〉が大泣きしている 吹き出し外に「あ—— あ—— あ——」と鳴き声がかかれている Waaah. Waaah. Waaah. (わー。わー。わー。)
	4	〈恵那〉の顔のアップ 半眼になり、口が引き結ばれ、不満げな表情 吹き出し外に「む——」と書かれている Hmmm ... (うーん…)
159	1	〈恵那〉の顔のアップ 縦の楕円の目に口を少し開き、斜め上を見上げて何か思いついた表情、頭の上に気づきのマークがある 吹き出し外に「あ」と書かれている Oh! (あっ)
	2	机の方を向いた〈恵那〉を後ろからとらえる構図 水槽に手を入れ、カエルをつかんでいる 「ごそごそ」とオノマトペがある
	3	〈みうら〉を正面からとらえ、〈恵那〉の腕だけが書かれた構図 〈恵那〉みうらちゃん

	Miura. (みうらちゃん) カエルを持った手だけ書かれ、表情はわからない 〈みうら〉ん？ Was? (何？) 覆面のために表情が見えない、頭の上に気づきのマーク カエルを見ている
4	〈よつば〉の顔のアップ 〈みうら〉ギャ—————!! Gyaaaahh!!! (ぎゃー!!!) (日)太い文字、おどろおどろしいフォント、とげとげしい吹き出しの形、吹き出しに向かって集中線 (独)太い文字、文字列が一文字ごとに上下に寄せられている 〈よつば〉はまだ涙を浮かべているが、目を開き口を少し開けて何かに気付いた表情、頭の上に気づきのマーク
5	〈恵那〉と〈みうら〉が向かい合い、それを〈よつば〉がそばから見ているのを〈よつば〉の後ろからとらえた構図 〈恵那〉ほーらほーら Na, wie gefällt dir unsere Prinzessin? (さあ、私たちのお姫様はあなたの気に入るかな？) 口を開けた笑顔 カエルを〈みうら〉に向かって差し出しながら、片足を上げ、〈みうら〉の方へ近づいている (7a)〈みうら〉わっ//なんだそりゃー!! (7b)Weg! // Bleib bloß weg! (どけて! // さっさとあっち行って!) 覆面のため表情はわからない 腕を顔の近くまで上げ、後ずさっている (日)太い文字、角のある吹き出し (独)太い文字

あずまきよひこ (2004) 『よつばと!』2巻、アスキー・メディアワークス、p.158-159

Azuma, Kiyohiko.(2007) Yotsuba&!, Übersetzer:Wehner, Marcus, Bd.2, TOKYOPOP, S.158-159

(VIII) 〈よつば〉、〈とーちゃん〉、〈ジャンボ〉、〈やんだ〉の4人が焼肉屋に出発しようとしている

ページ(独)	コマ	文字テキスト、イラスト表現
100	1	〈やんだ〉どこ行くの？ 叙々苑？ Wo geht's denn hin? Jojoen? (どこに行くの?叙々苑?) 下半身しか書かれていないために表情が分からない 〈ジャンボ〉の方を向いて立ち上がりかけている 〈ジャンボ〉ジュージュー うちの近所の 今日半額だってよ Nein, ins Juujuu. Die veranstalten heute eine Spachtelorgie zum halben Preis. (違う、ジュージュー。そこで今日は全部半額キャンペーンやってるんだ) 〈ジャンボ〉は画面の中に描かれていない 丸い角のある吹き出し 〈やんだ〉うそ！ 倍食えるじゃん Dann kann ich ja doppelt zuschlagen! (そうしたら俺本当に二倍いけるぞ) 〈とーちゃん〉よつばー 焼き肉行くぞー Yotsuba. Komm. Wir gehen. (よつば。来い。行くぞ) 口を開け、呼びかける表情 床に座って片膝を立てたまま、片腕をついて横を見ている
	2	〈よつば〉を正面からとらえた構図 満面の笑顔 腕を振りながら走って近づいてくる 「たっ」というオノマトペが書かれている
	3	立っている〈よつば〉と座っている〈とーちゃん〉が向かい合い、手遊びをしている背景に、ドアの所に立っている〈やんだ〉の首から下の部分が描かれた構図 〈よつば〉・〈とーちゃん〉に—くだ— Lecker Fleisch. 〈よつば〉は目をつぶった笑顔、〈とーちゃん〉は口を少し開いた普通の表情 右の手のひら同士を合わせている (日)太い文字 (独)太い文字
	4	3コマ目と同じ構図 〈よつば〉・〈とーちゃん〉に—くだ— Lecker Fleisch. (おいしい……肉だ) 3コマ目と同じ表情 合わせる手が左手同士に変わっている (日)太い文字 (独)太い文字
	5	3, 4コマ目と同じ構図

		〈よつば〉・〈とーちゃん〉やーき//にーく//だ—— Lecker ... // ... lecker ... // ...Fleisch! (おいしいー…//…おいしいー…//…肉だ！) 表情は3, 4コマ目と同じ 両手をそろえてそれぞれ手のひらを合わせている
	6	〈よつば〉の後ろからドアの前の〈やんだ〉を正面からとらえた構図 (8a)〈やんだ〉え!? 何それ!? (8b)Wow! Ist das ein neues Spiel?! (おっ！それ新しい遊びか?!) 逆三角形の白い目、口を開け起こっているような表情 少し足をまげて覗き込むように立っている (日)太い文字、角のある吹き出し (独)太い文字 〈よつば〉は後ろ向きに描かれている
101	1	玄関に向かい先を進む〈ジャンボ〉、〈とーちゃん〉、〈よつば〉が背を向けており、まだ廊下部分にいる〈やんだ〉を横からとらえた構図 〈やんだ〉よつば それ俺ともやろうぜ Ich will mitspielen, Yotsuba. (俺一緒に遊びたいよ、よつば) 口を少し開けた普通の表情 〈よつば〉いや やらん Nein. (いやだ) 後ろを向いている、腕にはディベアを抱えている 〈よつば〉を先に歩くとーちゃんも後ろを向いている

あずまきよひこ (2009) 『よつばと！』9巻、アスキー・メディアワークス、pp.100-101

Azuma, Kiyohiko.(2010) Yotsuba&!, Übersetzer:Wehner, Marcus, Bd.9, TOKYOPOP, S.100-101